

休眠預金活用事業 事業計画書

基本情報

事業名	このゆびとまれっす！
実行団体	浦和レッドダイヤモンド株式会社
事業の種類	③ソーシャルビジネス形成支援事業

バージョン	1
-------	---

事業名	スポーツクラブによる困窮世帯支援事業
資金分配団体	一般社団法人RCF

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援

I. 団体の社会的役割

(1) 団体の目的
浦和レッズは、活動を通じて、スポーツの持つ力を表現し、スポーツを観る人、する人、支える人が一人でも多く増える地域や社会を創り、スポーツを文化として育んでいきます。そうしたスポーツが文化としてある社会は、次世代にとってよりよい豊かな地域を作り、社会を作っていくはずで。そのためにクラブは、特にサッカーの持つ「教育」「活力の提供」「異文化との出会いと調和(多様性)」という価値の提供を、根本的な活動方針に据え、地域社会に貢献できるよう努めていきます。
(2) 団体の概要・活動・業務
プロサッカーチームを保有し、プロサッカー試合の興行、プロサッカーに関する広告宣伝及びグッズの開発・販売

II. 事業概要

実施時期	2021年8月～2022年2月	直接的対象グループ	子ども食堂を利用する子どもたちとその家族	間接的対象グループ	子ども食堂を支援・運営する方々
対象地域	埼玉県	人数	ハートフルケア100人レッズサンタ500人	人数	400人
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルケア（生活困窮・貧困家庭へのスポーツを通じた心身・精神的なケアプログラムの実施） ・レッズサンタ（子ども食堂への選手・スタッフ・マスコット等によるプレゼント（支援物資）デリバリーと子どもたちとの交流） ・特設サイト開設によるプロジェクトの周知と支援の輪の拡充 				

III. 事業の背景・課題

(1) 社会課題
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省の調査によると、日本の子どもの貧困率（2015年）は13.9%もあり、さらにひとり親家庭の貧困率は50.8%と先進国の中でも最悪な水準と言われている ・認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが今年6月に各地の子ども食堂へ実施したアンケートによれば、長期化するコロナ禍での変化として、まず目につくのは「困窮家庭の増加」を挙げている。「利用者が格段に増えた、困窮世帯が増えた」「SNSなどを介して、片親家庭や本当に支援を必要としている方の利用が増えた」「今まで子どもだけの利用が多かったが、家族全員分注文する家庭がほとんどで食数が増えた」などの声が寄せられている。 ・また、子どもの変化についても「皆がマスクをして黙っているためか、子どもの言葉の発達が兄弟に比べて明らかに遅く心配」「小中学生が挨拶をしなくなった。大声を出さない、黙食、マンションでも挨拶や声を出さない」「子供達同士のコミュニケーションがとれない」「集まること自体が悪になってしまう。それについて子供たちが罪悪感を感じている」「子どもたちが『コロナが原因で』というわがままも言わずすぐに聞き入れる（以前はもっと駄々をこねていた）」など、子どもたちなりのストレスが顕在化してきている
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護を受けている家庭への支援は手厚いが、そこまでいかない困窮家庭へのサポートが不足している ・必要な人に支援を届けることや気になる親子への個別支援という点において、情報が行き届いていなかったり、行政や学校・民生委員との連携不足を感じている
(3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブとしての人材やノウハウを活用し『生活困窮・貧困家庭の心身の負担軽減』を担うとともに、発信力とネットワークを生かした『子ども食堂への認知・賛同・参加・支援活動の輪を広げる』ことで、住みやすい共助社会づくりに貢献する ・クラブが掲げる「青少年の健全育成に寄与していく」という理念に沿った活動を実践する

IV. 事業設計

中長期アウトカム
埼玉県およびさいたま市内において、 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに元気と勇気と笑顔を届け続ける。子どもたちがサッカーを好きになり、クラブを好きになり、スポーツを通じて心身とも健康に成長している ・スポーツクラブが社会課題解決のための取り組みを実施していることを地域に方々に認知され、支援の輪が広がっている ・子ども食堂や支援団体との関係が深まり、課題に対する協働の取り組みを継続・発展させ、生活困窮家庭の減少と共助社会づくりが進んでいる

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
生活困窮家庭とその子どもたちの笑顔創出と、心身のストレス緩和	子ども食堂からのポジティブな反応のフィードバック	0	子どもたちや子ども食堂がクラブの取り組みを評価し、継続的なサポートを期待している状態	2022年2月
生活困窮家庭へプレゼントを届けることにより子どもたちの笑顔を創出	子ども食堂からのポジティブな反応のフィードバック	0	子どもたちや子ども食堂がクラブの取り組みを評価し、継続的なサポートを期待している状態	2022年2月
本活動の認知と支援拡充	特設サイトで取り組みに関する情報発信ができていますかどうか	0	取り組みの成果および多様な協力者の声・情報がサイトにアップされている	2022年2月
子ども食堂ほか関係者とのネットワーク作り	双方がパートナーとして理解しあえているかどうか	0	相互に理解していて、必要に応じて連絡・相談・協力体制が取れる状態	2022年2月

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
ハートフルケア	プログラムへの参加人数	0	100人	2021年10月
レッズサンタ	プレゼント届け先の数	0	20か所 500人の子どもたち	2021年12月
特設サイトの開設と情報発信	メディアでの情報発信数	0	24回（週1回×6か月）以上	2022年2月
新たな関係先との関係構築数	関係構築数 人的・物的な支援数	0	5か所以上	2022年2月

アウトプット[No.1]に対する活動

活動内容	活動時期
実施日時、企画内容の確定、関係先との調整	2021年8月
子ども食堂による参加者募集	2021年9月
イベント実施	2021年10月16日or17日

アウトプット[No.2]に対する活動

活動内容	活動時期
実施日時、企画内容の確定	2021年8月
物資や協力者を集める（スポンサー企業や行政へアプローチ）	2021年9～11月
プレゼントを各子ども食堂へデリバリー（選手、クラブスタッフ、マスコットの活用調整）	2021年12月

アウトプット[No.3]に対する活動

活動内容	活動時期
事業名称の決定、アイコン製作、サイトのイメージ構成	2021年8月
特設サイト開設	2021年9月
定期的・継続的な情報発信（認知拡大）	2021年9月～2022年2月

アウトプット[No.4]に対する活動

活動内容	活動時期
子ども食堂との対話、行政との対話、スポンサー企業へのアプローチ	2021年8月～2022年2月

V.インプット

人材	担当スタッフ	資機材	×
----	--------	-----	---

VI.持続可能性

持続可能性1	「ハートフルケア」はハートフルクラブの例年活動としてを組み込む。「レッズサンタ」はクリスマス時期（12月）だけでなく、子どもの日（5月）にも展開できないか模索していく
持続可能性2	特設サイトを自前サイトへ統合しつつ、活動および情報発信を継続。クラブ内外のステークホルダーに対して「このゆびとまれっず！」の理解・支援の輪を広げていく

VII.広報戦略および連携・対話戦略

広報戦略	オウンドメディア（HP、SNS）、子ども食堂、行政（さいたま市、埼玉県など）、Jリーグ、各種告知媒体（新聞、テレビなど）
連携・対話戦略	子ども食堂、スポンサー企業、行政、ほか支援団体との対話を通じて連携を深め、取り組みの基盤をより強固にする